

ステロイド中止後に滲出液と喘息を経験した成人アトピーの経過（37 歳）

症例 ID：001-30-AT | 記録日：2013 年 9 月 20 日

1. 診断・治療前経過

2005 年夏、胸にあせものようなかゆみを伴う小さな発疹が出ました。皮膚科で処方された調合外用薬を塗ると症状は目立たなくなりましたが、中止すると再び出るため、秋頃には毎日塗るようになりました。

その後、汗ばむと頭皮にも強いかゆみが出て、掻くと頭皮がフケのように落ちました。脂漏性皮膚炎とされ、リンデロンが処方されました。2010 年 10 月頃にはステロイド外用薬を塗ってもかゆみが引きにくくなり、緊張や焦りで皮膚の内側にチカチカ・ピリピリする感覚が出るようになりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	胸部の湿疹に対して調合外用薬を毎日使用するようになり、頭皮症状にリンデロンも処方されました。その後、プロトピック軟膏を処方された経過があります。
製品名	リンデロン。調合外用薬の名称は不明。プロトピック軟膏の処方歴があります。
強度	リンデロンの強度区分は不明です。
使用期間	2005 年夏から 2010 年頃まで、断続的ないし継続的に使用した経過があります。
中止時期	2010 年 10 月頃から自発的にステロイド外用薬を減らし始めました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後のステロイド使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2005 年夏～秋	来院前	胸部のかゆみと発疹に外用薬を使い、塗ると症状が目立たなくなる一方、中止すると再燃する状態を繰り返しました。
2010 年 10 月頃	減量開始	ステロイドを塗ってもかゆみが引きにくくなり、自発的に塗布日数を減らしました。塗らない日には顔がジクジクして赤く腫れ、トイレで掻きむしる日が続きました。
2010 年 12 月 16 日以降	強い悪化	出張帰りに顔へ斑点が出て発熱し、翌日には顔が強く腫れて大量の滲出液が出ました。人前に出ることが難しくなり、休職しました。
2011 年 2 月下旬まで	寝たきりに近い時期	身体中から滲出液が出て、ほぼ寝たきりの状態でした。
2011 年 3 月下旬	復職	滲出液がなくなり腫れが引いたため復職しましたが、赤く乾燥した皮膚、日差しによる痛み、汗をかいた時のかゆみが続きました。梅雨前には喘息も出始めました。
2011 年 6 月頃	松本医院初診	喘息で呼吸が苦しい状態で受診しました。煎じ薬開始後、喘息症状は 2 週間ほどで目立たなくなりました。
治療開始後 9 か月	継続期	週末に 5 時間の薬湯を続けました。薬湯後の数日間はピリピリしたかゆみと掻破による滲出液が出ましたが、9 か月続けるうちにピリピリ感や汗ばむ時のかゆみはかなり軽くなり、一見してアトピーとは分かりにくい状態になりました。

4. ピーク時期

ピークは、2010 年 12 月から 2011 年 2 月下旬までの、顔の強い腫れ、大量の滲出液、全身からの滲出液により休職し、ほぼ寝たきりとなった時期です。

5. 困りごと

- ・顔の腫れと滲出液により、人前に出ることが難しくなりました。
- ・夜間のかゆみで眠りにくく、仕事継続にも支障がありました。
- ・復職後も日差しの痛み、汗をかいた時のかゆみ、喘息症状がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始後も薬湯後のピリピリ感や滲出液を伴う時期がありましたが、9 か月ほど継続する中で、ピリピリ感や汗ばんだ時のかゆみはかなり軽くなりました。

休職を要するほど強い時期を経ながらも、9 か月ほど継続する中で、喘息症状、皮膚のかゆみ、生活上の支障が軽減された症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。